

# Comparison of the expression levels of molecular markers among the peripheral area and central area of primary tumor and metastatic lymph node tumor in patients with squamous cell carcinoma of the lung

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宇田川, 響 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001915">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001915</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1772 号

Comparison of the expression levels of molecular markers among the peripheral area and central area of primary tumor and metastatic lymph node tumor in patients with squamous cell carcinoma of the lung

(肺扁平上皮癌の原発巣の辺縁部と中心部とおよびリンパ節転移巣における分子マーカーの発現レベルの比較)

宇田川 響 (うだがわ ひびき)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、肺扁平上皮癌の原発巣の中心部と辺縁部およびリンパ節転移巣での、分子発現の差を検討した初めての研究である。がんの予後予測や治療効果予測のために、バイオマーカーとなる分子の発現を分析することは重要である。しばしば、各種のがんで分子発現の不均一性が問題となっているが、これまでに肺扁平上皮癌における分子発現の不均一性の詳細な報告はない。

本研究は、肺扁平上皮癌の術後検体を用いて、原発巣の中心部と辺縁部およびリンパ節転移巣での、上皮間葉移行マーカー、幹細胞マーカー、チロシンキナーゼの発現を免疫染色法を用いて評価している。

E-cadherin、CD44、EGFR において、領域間で分子発現に差を認めた。CD44 においては原発巣中心部での発現が予後と関連した。同様に、EGFR は原発巣辺縁部での発現が、SOX2 はリンパ節転移巣での発現が予後と関連していた。

進行性肺がんにおいて分子発現の評価をする場合、気管支鏡下生検検体や針生検検体を用いることがほとんどであり、これらの検体はサイズが非常に小さいため、腫瘍の一部の評価しかされていない。本研究の結果から、サイズの小さな検体を用いて分子発現を評価する場合は、分子発現の不均一性を考慮する必要があるといえる。特に EGFR の発現は、抗 EGFR 抗体の治療効果予測として期待されており、今後は不均一性も考慮に入れた検討が必要となるかもしれない。また、分子発現と予後の関連を検討する際も、領域毎に分子発現を評価する必要がある。

以上より、本研究は、今後の肺扁平上皮癌の予後予測や治療効果予測のためのバイオマーカーの研究において、重要な研究であると考えられる。よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。